

平成26年度 あきた型学校評価

- 1 総務部
- 2 教務部
- 3 進路指導部
- 4 生徒指導部
- 5 特別活動部

秋田県立大館高等学校 定時制課程

重点目標	P T Aや教育振興会などとの連携を図るとともに、分掌間の連絡調整を行うことで、教育活動や各種学校行事を円滑に運営するように努める。	P
▽		
現 状	① P T A活動に保護者の協力を得られているが、一部の保護者に限られている。 ② 教育振興会および周辺市町から、補助金や賛助金などの協力を得られている。 ③ 納入金、補助金、賛助金をもとに、各活動に必要な支出を行っている。 ④ 校内ネットワークを活用して、情報の共有化を図っている。	
▽		
具体的な目標	① P T A活動に参加する保護者の割合を前年度並みとする。 ② 補助金および賛助金について前年度並みの金額を確保する。 ③ 各種会計を適正に運用し、教育活動や各種学校行事を支援する。 ④ 情報の共有化と仕事の効率化を図る。	
▽		
目標達成のための方策	① P T A役員や保護者に対して、P T A活動への積極的な参加を呼び掛ける。 ② 周辺市町に対する補助金継続の陳情を行うとともに、教育振興会の関係者に賛助金の協力を呼び掛ける。 ③ 適切な予算編成を行い、必要に応じた支出を行う。 ④ 共有フォルダを適宜整理し、より効果的な活用ができる環境を整える。	

具体的な取組み状況	① P T A役員や保護者に対する連絡を早めに行い、活動への積極的な参加を呼び掛けた。 ② 補助金継続の陳情を7月と11月に2回行った。また、賛助金への協力依頼を8月初旬に郵送した。 ③ 適切な予算編成を行い、必要に応じた支出を行った。 ④ 校内ネットワークの活用を促し、情報の共有化と仕事の効率化を図った。	D
達成状況	① P T A活動への保護者の参加率がやや低下した。 ② 補助金は前年度と同額を、賛助金も前年度並みの額を確保できた。 ③ 適切な予算編成を行い、必要に応じた支出を行った。 ④ 各分掌の情報を共有することができ、仕事の効率化を図ることができた。	

自己評価	(評価) B	②③④については十分な成果を上げることができたが、①はやや物足りない面があった。	C
------	--------	--	---

↑
基準評価
↓

A : 具体的な活動がなされ目標を達成できた
B : 具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C : 具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない

学校関係者評価と意見	(評価) B	・ P T A、教育振興会、同窓会、生徒など一同に語り合う機会を設け充実した環境づくりを行う。 ・ P T Aの参加者を増やすことはたいへんなこととは思いますが、がんばってください。	C
------------	--------	--	---

自己評価および 学校関係者評価 に基づいた改善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・学校便りなどを通じて、学校での教育活動を保護者に理解してもらおう。 ・PTA役員との連携をこれまで以上に密にする。 ・PTA活動参加への呼びかけを早期に行う。 ・賛助金について、教育振興会役員や同窓会役員に相談して協力を依頼する。 ・PTA、教育振興会、同窓会の各役員と生徒が話す機会を設けたい。 	A
------------------------------------	---	---

P：目標の設定 (P l a n)

D：実践 (D o)

C：実施状況の中間把握 (C h e c k - 1)

C：自己評価 [年度末の評価] (C h e c k - 2)

A：改善方策の実践 (A c t i o n)

様式

評価領域	教務部（定時制）
------	----------

重点目標	社会で必要とされる知識を身につけさせ、 <u>生徒の実態に即した授業改善の推進</u> とよい面を伸ばす指導	P
▽		
現状	①義務教育段階の基礎学力を十分に身につけていない生徒がいる。卒業時に社会で必要とされる一般常識を身につけさせる必要がある。 ②社会で必要とされるコミュニケーション力や、思考力、判断力、表現力を磨く必要がある。 ③昨年度は年2回授業参観期間を設けた。研究授業は実施していない。	
▽		
具体的な目標	①義務教育段階の基礎学力の定着と一般常識の定着。 ②社会で必要とされるコミュニケーション力や、思考力、判断力、表現力の育成。 ③年2回の授業参観期間や研究授業を通して授業改善を図る。	
▽		
目標達成のための方策	①国語、数学、英語での学校設定科目で基礎学力を養い、夏冬休み明け課題テストの実施と年3回の一般常識テストの実施で一般常識の定着を図る。 ②授業時の時間を守る、挨拶の徹底、問を発する授業の実践、発表時の指導、総学等で自分の考えをまとめ、発表する機会の設定をする。 ③授業参観期間を設定して感想を伝えたり、研究授業を実施して協議をする。	

具体的な取組み状況	①実用国語、数学演習、基礎英語の学校設定科目を実施し、基礎学力を養った。年3回の一般常識テストを実施し上位者を表彰した。夏冬休み明け課題テストを実施し、学習の機会を作った。 ②「生徒の理解度を把握し、達成感や成就感を生み出す指導の工夫」を課題として授業に取り組んだ。総学では研究の手順について指導した。 ③年2回授業参観期間を設けて情報を共有した。指導主事訪問時に研究授業を行い協議した。	D
達成状況	①学校設定科目、その他の授業を通して基礎学力の定着を図り、一般常識テスト、課題テストを通して一般常識の定着を図った。基礎学力の定着に関する取組は継続する必要がある。 ②指導主事訪問の1か月前課題を念頭に各自が工夫をして授業に取り組んだ。総学では研究の手順を基に研究発表会を行った。 ③年2回授業参観期間を設けて各自が複数の授業を参観し、その情報を共有し、各自の授業に生かした。研究授業の実施と参観、協議を通して授業改善に生かした。	

自己評価	(評価) B	(根拠) 3つの目標に向けての具体的な活動をそれぞれすることができた。生徒の成長が見られる面もあるが、個々の生徒に応じて継続して取り組んでいく必要がある。	C
------	-----------	--	---

↑
基準評価
↓

A：具体的な活動がなされ目標を達成できた
B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない
C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない



学校関係者評価 と意見	(評価) B	(意見) ・教科別に理解できない点などをカード形式にして記入・提出 させ、個別指導を試みる。教室にカード入れを備える。 ・成果も大事とは思いますが、根気よく指導していただきたい。	C
----------------	-----------	--	---



自己評価および 学校関係者評価 に基づいた改善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業では集団での学びを身につけさせるとともに、生徒同士でも教え 合い、学び合える機会をつくるなど教員の創意工夫を支援する。 ・年度当初に学力を測る業者テストを実施し、その後の指導に生かす。 また、授業で理解できなかった点をカードに記入・提出させ個別指導 する。 ・発達障害や知的障害についての知識を共有し、特別支援のあり方、い かにして基礎学力を養い、社会で生きる力を育むか研究する。 	A
------------------------------------	---	---

P : 目標の設定 (P l a n) D : 実践 (D o) C : 実施状況の中間把握 (C h e c k - 1)
C : 自己評価 [年度末の評価] (C h e c k - 2) A : 改善方策の実践 (A c t i o n)

重点目標	基礎学力の向上に努め、生徒の能力・適性に応じたキャリア教育の推進を図る。		P
▽			
現状	①多くは自分の適性を活かせる進路を選択できているが、様々な悩みや不安から進路決定を避けてしまう生徒も少なくない。いずれの段階においても個別の丁寧な支援が必要である。 ②授業やあらゆるテストの機会を活用して基礎学力の向上を目指している。学習への意欲が低い生徒への意識喚起が重要である。 ③ハローワーク職員の講話や諸先輩方による講話を実施しているが、生徒が実践的に学ぶ機会は少ない。		
▽			
具体的な目標	①入学時から生徒との面談を密にし、3年、4年がかりで指導にあたる。 ②定期考査や一般常識テストの復習の仕方を指導し、基礎学力の徹底を図る。 ③ハローワークとの連携を密にし、諸先輩方から学ぶ機会を活用する。		
▽			
目標達成のための方策	①個人面談を通じた生徒の進路実現に向けた意識喚起と、卒業学年については保護者面談または三者面談を行い、生徒が就職・進学に向けた準備を早期に取り組むことができるように支援する。 ②授業を中心とした基礎学力の定着に全職員で根気よく取り組む。 ③「講話」後のLHRまたは総合的な学習の時間で、実践的な学びにつながる機会を設け、生徒の発言・発表の場を作る。		
▽			
具体的な取り組み状況	①個人面談、保護者面談、三者面談を計画的に行うことができ、進路実現に向けて生徒が積極的に動き出せるように適宜支援した。 ②授業ごとの目標を明確に生徒に提示し、授業内で学ぶ姿勢の徹底に努めた。 ③講話ごとに記録や感想をまとめさせ、聞いた内容を各自が振り返る機会を設けた。		D
達成状況	①卒業学年に限らず、1、2年次の保護者面談または三者面談も適宜行われた。 ②基礎学力の定着を目指し、生徒が授業で学んだことに達成感を得られるように工夫できたが、個人によって授業への取り組み状況に差があった。 ③講話後個人の意見をまとめる時間を設け、意見交換するような場面はクラスごとに行った。		
▽			
自己評価	(評価) B	おおむね目標は達成できたが、2については達成状況に個人によって差があり、今後も指導の仕方の工夫や改善が必要である。	C
↑ 基準評価 ↓	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
▽			
学校関係者評価と意見	(評価) B	・基礎学力の向上がなかなかできない現代、難しいとは思いますが、根気よく指導していただきたい。 ・職場のない生徒と共に職場見学(希望の職種に出向いてみるなど)。	C
▽			

自己評価および 学校関係者評価 に基づいた改善 策	<ul style="list-style-type: none"> ・授業を中心に基礎学力の定着を図るとともに、自ら学習に取り組もうとする姿勢や態度の育成に根気よく努める。 ・インターンシップの機会等を活用し、勤労に対する意識を高めさせる。 	A
------------------------------------	---	---

P：目標の設定 (P l a n) D：実践 (D o)
C：実施状況の中間把握 (C h e c k-1) C：自己評価 [年度末の評価] (C h e c k-2)
A：改善方策の実践 (A c t i o n)

重点目標	個に応じたきめ細やかな指導で、豊かな人間形成をはかる。		P
▽			
現 状	①自分の居場所・学び直しの場として、中学時から大きく改善しようと頑張っている生徒が多い。しかし複雑な家庭環境をかかえたり、不登校を引きずるなど指導が行き届きにくい状況がある。 ②自分から挨拶や返事がきちんとできないなど、基本的な生活習慣の確立していない生徒がいる。中にはルール違反を繰り返したり、マナーの身についていないものがある。 ③発達障害などで特別支援の必要な生徒がいる。		
▽			
具体的な目標	①個々に応じた指導を全職員であたる。 ②社会人になるにあたっての一般常識や生活習慣を身につけさせる。 ③情報を共有することにより、生徒に適した指導を行う。		
▽			
目標達成のための方策	①職員の打ち合わせや定例の会議などで生徒の動静、保護者からの要望など共通の認識を保有し、指導・面談などに活用する。 ②授業、行事、学校教育の全体場面を通して、職員全体で指導する。 ③情報の共有化・専門家や地域医療との連携をはかる。		
▽			
具体的な取り組み状況	①職員会議や保護者から得た情報等をもとに、生徒の状況把握に努めている。 ②情報を共有することにより、個々の生徒に全職員で対応している。 ③S C、教育専門監、児童相談所、医療機関等との連携を図っている。		D
達成状況	①会議のみならず情報交換を密にして、生徒の状況把握に努めた。 ②個々の生徒の指導に、全職員で適宜あたり成果が見られた。 ③ケース会議などで当該生徒の共通認識を図り、指導に活用した。		
▽			
自己評価	(評価) A	生徒が少人数なので、個々の現状把握や変化、成長などにいち早く気づくことができ、素早い対応ができた。	C
	↑ 基準評価 ↓	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない	
▽			
学校関係者評価と意見	(評価) B	・自分の意見発表の機会を与える。(一日一人授業スタート時または終了時)あいさつ運動も ・対応が素早くできたことは、大変良かった。	C
▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	・生徒が自分の意見を人前でも話せるように、さまざまな場面を活用して経験させる。 ・今後とも、各部署で連携を密にして素早い対応を継続し、その後の細やかなケアも個に応じて図りたい。		A

P：目標の設定 (P l a n) D：実践 (D o)
 C：実施状況の中間把握 (C h e c k - 1) C：自己評価 [年度末の評価] (C h e c k - 2)
 A：改善方策の実践 (A c t i o n)

重点目標	集団や社会の一員として、自主的によりよい生活や人間関係を築こうとする実践的な態度を育てる。		P
▽			
現状	①多くの生徒が問題なく登校できているが、社会と関わる体験が不足しており、社会や集団の一員であるという意識や自他を尊重する精神が不足している。 ②集団生活に慣れていない生徒や、物事に対して消極的な生徒が多い。		
▽			
具体的な目標	①社会や集団の一員として自らの役割を理解し、積極的に活動する態度を育てる。 ②生徒自身が充実した学校生活を送ることができるように、部活動への参加を促し、自主性・協調性・責任感の向上を図る。		
▽			
目標達成のための方策	①社会と関わる機会を設け、事前事後指導を丁寧に行うことにより目的意識を明確にし効果的な実践を行う。 ②生徒会活動や学校行事、各種大会への積極的な参加を促し、生徒が主体となって活動できるような支援を工夫する。		
▽			
具体的な取り組み状況	①地域貢献としてクリーンアップと除雪ボランティアや、各種学校行事において全職員で指導に当たった。 ②各種集会や行事において、特定の生徒ではなく、なるべく多くの生徒に活躍の場を作ることができた。 4月〔対面式、生徒総会〕 5月〔県北定通総体〕 6月〔校外クリーンアップ、全県総体激励会、全県定通総体、大高祭〕 7月〔性教育講座〕 9月〔生徒会役員選挙〕 10月〔生徒会任命式、歯科講話、クラスマッチ〕 11月〔秋季県北定時制体育大会、ボウリング教室、生徒会誌「雄飛」作成〕 12月〔芸術教室、薬物乱用防止教室〕 2月〔予餞会、除雪ボランティア〕		D
達成状況	①丁寧な指導により多くの生徒が目的意識を持って、積極的に活動することができ、良かった。 ②担当教員が生徒の役割を割り当てると、責任を持って活動しているが、自分から声を上げることは少なかった。		
▽			
自己評価	(評価) B	(根拠) 充実した活動状況であったが、協調性と自主性を高める指導の工夫が必要である。	C
↑ 基準評価 ↓	A：具体的な活動がなされ目標を達成できた B：具体的な活動はなされているが、目標は達成できていない C：具体的な活動がなされておらず、目標も達成できていない		
▽			
学校関係者評価と意見	(評価) A	(意見) ○取り組み内容にもより、充実感を得ているようだ。達成感を感じさせる取り組みに期待する。 ○自分で目的意識を持つことの大切さを理解していただきたい。	C
▽			
自己評価および学校関係者評価に基づいた改善策	○生徒の主体性ややる気を育てることができるような丁寧な指導をする。 ○専門家を招いたりして、各種行事において目的意識を高めるための工夫を行う。		A

P：目標の設定 (Plan) D：実践 (Do) C：実施状況の中間把握 (Check-1)
C：自己評価 [年度末の評価] (Check-2) A：改善方策の実践 (Action)